

# ここまでの議論のまとめ

白井市公立保育所の役割及び体制検討委員会 第7回会議資料

# (1) 本委員会で検討する課題

## 【第5回会議において整理した本委員会で検討する課題】

①	保育職員全体に占める正規職員の割合が低い（公立）	【体制の検討に関わる事項】
②	職員の勤務管理が複雑（公立）	【体制の検討に関わる事項】
③	加配児の公立保育所への偏り	【役割及び体制の検討に関わる事項】
④	保育士の不足	【体制の検討に関わる事項】
⑤	保育士の育成機会の確保とキャリアデザイン	【役割及び体制の検討に関わる事項】
⑥	保育以外の求められる役割	【役割及び体制の検討に関わる事項】
⑦	出生数の減少に伴う保育需要の変化への対応	【役割及び体制の検討に関わる事項】
⑧	多様な保育ニーズへの対応	【役割及び体制の検討に関わる事項】

## (2) 公立保育所の新たな役割

### ① 子育て支援の中核的機能

公立保育所は、市の子育て支援の拠点として、市民に対して保育や子どもに関する身近な相談や交流の場を提供し、保育施設を利用していない家庭を含めすべての子育て家庭への支援を図る。

また、市内の保育施設や幼稚園等の中心的存在として、これらの機関と市の子育て関係部局との連携の中核を担う。

### ② 民間保育施設に対する相談・支援機能

公立保育所は、産休明け保育や医療的ケア児、特別な支援を必要とする児童の保育など様々な保育ニーズに対応してきた経験や、看護師が配置されているといった公立保育所ならではの特色を活かし、市内保育施設の指導的な立場として、市の保育の質を向上させるため、これまでに培った保育に関する知識や経験を市内の保育施設全体への共有や、民間保育施設への相談・支援を行う。

## (2) 公立保育所の新たな役割

### ③ 定員調整機能

出生数の減少に伴う将来的な保育需要の減少が見込まれるなか、民間保育施設が安定した運営を行うために常時一定以上の児童を受け入れる必要があることから、公立保育所が定員調整機能を担う。

### ④ 多様なニーズへの対応

社会情勢の変化による保護者の働き方の多様化に伴い、保育ニーズも多様化していくことが想定される。また、医療的ケア児の受入れの促進や、保育所等を利用していない特別な支援を必要とする児童に対する就学前に集団生活を経験する場の提供が求められる。

公立保育所は民間保育施設より少数のニーズに対応しやすいといった特性を活かし、多様な保育ニーズの受け皿としての役割を担う。

### (3) 今後検討を要する事項

①	公立保育所では、保育職員全体に占める正規職員の割合が少なく、また様々な雇用形態の保育従事者がいることから、勤務管理が煩雑になっている。 <b>【現在の公立保育所の課題】</b>
②	特別な支援を必要とする児童の受け入れが、公立保育所に偏っている。 また、民間保育施設の特別な支援を必要とする児童の受け入れを推進することで、公立保育所への偏りを解消するとともに、利用者にとって園を選びやすくなるというメリットがある。 <b>【現在の公立保育所の課題】</b>
③	今後、公立保育所には保育以外の役割が求められるなか、新たな役割を担うためには、さらなる保育士のキャリアアップの仕組みが必要となる。 <b>【新たな役割を担うために検討を要する事項】</b>
④	公立保育所において今後の保育ニーズの減少や、保育ニーズの多様化に対応するための人材の確保について検討する必要がある。 <b>【新たな役割を担うために検討を要する事項】</b>
⑤	すでに公立園では様々な解決すべき課題が生じている状況で、今後さらに新たな役割を担うことになると、保育士の負担が大きすぎる。 <b>【新たな役割を担うために検討を要する事項】</b>
⑥	現在の正規職員の保育士の数で公立園が新たな役割を担うのは困難。 <b>【新たな役割を担うために検討を要する事項】</b>
⑦	新たな役割を担うための財源について検討する必要がある。 <b>【新たな役割を担うために検討を要する事項】</b>

## (4) 論点と検討事項の整理

論点	今後検討を要する事項
①公立園が新たな役割を担うためには、必要な人材・財源を確保する必要がある。	・ 人材の確保 ・ 財源の確保
②市全体の保育の質の向上のためには、市が民間保育施設へ対して人的、財政的支援を行う必要がある。	
③特別な支援を必要とする児童の公立保育所への偏りを解消する必要がある。	・ 特別な支援を必要とする児童の公立保育所への偏りの解消

### ●今後の議論のポイント

⇒公立・私立が、どのように役割分担することで課題解決ができるのか。

## (5) 公立保育所が新たな役割を担うための 持続可能な体制（案）

### 公立保育所が新たな役割を担うための持続可能な体制（案）

- ・ 役割分担の方法として、公立保育所を一部民営化することで、新たな役割を担う人材を確保するとともに、民営化により生じた財政的効果を公立保育所の新たな役割や民間保育施設への支援に活用する。
  - ・ 民営化する園に児童発達支援事業所を併設し、特別な支援を必要とする児童の受け入れや支援を行う。
- ⇒ 公立・私立で提供される保育サービスの内容に差はない。
- ⇒ 私立園がこれまで以上に保育の役割を担うことで、市が新たな役割を担う体制を整えることができる。役割分担による保育の質の向上が期待できる。
- ⇒ 民営化する園の機能については検討の余地がある。  
（例：医療的ケア児の受入体制の義務付け など）

## (6) 体制（案）に対する第6回会議での意見①

①	正規職員の割合が少なく多様化に対応することが難しいため、一部民営化で正規職員の数を増やす、公立園を集約するのがよいのでは。
②	既に複数の公立園の民営化を実施している自治体で、徐々に一園ずつ民営化している事例がある。
③	公立園では会計年度任用職員を20人募集して3人の応募しか集まらないような状況なので、集約して正規職員を増やすのがよいのでは。
④	白井市は松戸市や船橋市などの大きい市に囲まれており、また東京も近いため、そちらに保育士が流れている。保育士を募集してもなかなか集まらないという現状がある。
⑤	正規職員の保育士の増員について、財政的に余裕があれば一番良いが、やはりそこは中々難しい。また、人材不足というのが根本的にあり、単純に増員するのは難しいのでは。
⑥	正規職員になりたいという職員が今の時代少ないのでは。担任になるよりも副担当のままがいいという保育士もいる。正規職員が多くなることで正規職員の意識が高くなり、同じ意識を持った人が増えると保育の質が向上するのでは。



## (6) 体制（案）に対する第6回会議での意見②

⑦	正規職員が多ければ先輩の姿を見たり、どんどん担任になっていくこともできるので、質が引き継がれて行くのでは。
⑧	民営化によって保護者がどういった不安があるのか
⑨	民営化による役割分担について、先進事例などの具体的なイメージがあるとよい。
⑩	公立園の民間委託に関する先進事例、成功事例や保護者の話などを紹介してほしい
⑪	保育士の仕事を整理して仕事量を減らすことで、新たな役割を担ったり保育の質の向上につながるのでは。
⑫	公立園の集約により1園あたりの正規職員の数を増すことで、私立園のフォローや仕事の整理が可能になるのでは。
⑬	民営化にあたって、民営化を受ける法人が保育士の確保が出来ないと難しいのでは。

## (7) その他の意見

これまでの議論の中で出てきた、提言作成に当たって参考とする可能性がある意見等を抜粋した。

①	保育時間の延長や開所日の拡大等の検討に当たっては、保護者ニーズの視点に加えて、子どもの視点や家庭保育の重要性も考えるべき。
②	現在、市が民間保育施設に対して特別な支援を必要とする児童の受け入れに対する財政的支援を実施しているが、受け入れに要する保育士配置のための人件費を賄うには十分ではない。受け入れを推進するためには、実態を踏まえた支援となるよう検討していくことが望ましい。
③	保育所を利用していない特別な支援を必要とする児童に対して、就学前に集団生活を体験する場を提供できるのは公立園が適している。
④	公立、私立で保育の内容や運営基準、保育料に違いはない。
⑤	市全体の保育の質の向上には、民間保育施設への人的、財政的支援が必要。